

平成31年度学校評価

重点目標 ○指導・支援をつなげる。(指導の継続性の確保) ○主体的な学びを促す授業づくりを行う。(社会に開かれた教育課程) ① 健康で安全に学習でき、安心して通える学校 ② 一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校 ③ 教職員の能力や専門性を発揮できる学校 ④ 保護者、関係機関と連携をし、特別支援教育のセンター的役割を果たしている学校			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
幼・小学部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容・方法の検討・実践・評価・改善により、主体的に活動し、伝える力、関わる力を育む授業づくりを行う。 学年・部、校外の人との関わりを積極的に実施し、学年間・部間、地域社会とつながりのある指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心に即した学習環境を整備し、五感に訴えかける学習活動を多く取り入れる。 気持ちを表出したり、自発的な活動を促したりする支援機器や支援具を効果的に活用する。 他部や他学年、地域社会と協働・連携できる機会を、教育活動全般を通じて意識的に設定する。 医ケア対応、アレルギー対策、ヒヤリ・ハットの検証等を確実に行うことで、安心・安全な学習環境や支援方法の提供に努める。
中学部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画と個別の指導計画を活用し、学習面・生活面において指導の継続を図ると共に、卒業後の生活を見据えた身に付けたい力の育成を目指す。 一人一人が主体的に活動して、目標を達成できる実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との共通理解を深め、卒業後を見据えた身に付けたい力を育成する具体的目標を設定するなど、更なる個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用を進める。 学習面と生活面において、できる・分かるという実感や自己肯定感をもてるように意思伝達や意思決定をする場面を設定するとともに、何ができるように(分かるように)なったかを明確にする。 積極的な支援機器の整備・活用など、一人一人の具体的目標を達成するための授業の工夫を行う。 専門家の助言や教員間での指導方法等の研修を通して、指導のスキルアップを図るとともに、職員間の連携や引継ぎを確実に行うことで、生徒のニーズに応じた指導・支援を行う。
高等部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 中学部や中学校での教育の成果を引き継ぎ、卒業後に向けた実践的な学習を積み重ねることにより、生徒一人一人の主体性を育む。 卒業後の進路先に実践の成果を確実に引き継ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな学習場面で自己選択・自己決定を繰り返して主体性を育むと共に、自分の思いを相手に伝える力を育てる。 高等部3年間を見通し、小規模集団による校外学習を系統的に計画し、公共交通機関の利用方法、社会資源の活用方法、余暇活動の取組方法などを実践的に学ぶ。 合理的配慮の考えに基づき、ICT機器を始め、さまざまな支援機器や支援具の活用を進める。 引き続き外部講師による授業を企画し、消費者教育や主権者教育等も加え、学びの視野を広げる。
訪問教育	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> ゆったりした体と心で過ごせるようにする。 訪問生と通学生、また、訪問生同士の情報を交換し合う機会を設定し、つながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 体調を考慮しながら、五感を刺激するような学習内容を工夫する。 写真や映像、訪問通信などを利用して相互に意識できるようにする。その際には個人情報にも配慮する。
総務部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 掲示板の安全点検を行うとともに、教育活動に関する掲示の充実を図る。 保護者に本校の教育活動に対するアンケートを実施し、感想、意見等を集約する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に掲示板の安全点検を実施する。 各部、各分掌等の取組を広く紹介できる学校紹介の掲示を行う。 保護者の感想、意見、要望を集約した結果や明らかになった課題を、各部会や年度末の保護者部懇談で報告する。
教務部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 幼小中高の指導、支援について検討するとともに、指導計画の連続性、つながりのある教育課程、学習環境・支援体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員参加の教科会を設定して、各教科の段階的なつながりや新学習指導要領への対応を考える場とする。 各教科の教材教具の整理やデータの蓄積体制を整えることで学習環境や合理的な支援環境を高め、教具の開発を促す。
研修部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の教員として必要な知識、技能の習得、安全に関する訓練等の研修を計画する。 確かな学びを育てる授業づくりを行うための研修・研究等を発展させ、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関と連携をとり、全校研修や各研修会の内容の充実を図り、肢体不自由教育の専門性の向上を促す。 長期休業中等における自主研修会の内容の精選を図り、教職員相互が研修できる環境を整える。 各研修の報告の場を設けて、常に新しい情報を得られるようにし、得られた知見を授業や指導に反映する。
図書部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい配架整備と図書室利用の啓発を図る。 P T Aや外部ボランティアと連携してさまざまな企画に取り組み、幼児児童生徒の本への興味関心を高める。 バーコード化をすることにより、より使いやすい図書室にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月テーマに沿った展示をしたり、教科や分掌との連携企画展示を行ったりして、利用しやすくなる図書室にする。 生徒指導部と連携しながら、本を通して幼児児童生徒の人権意識を高める。 P T Aや外部ボランティアと連携しての読み聞かせ企画や国際子ども図書館からの借り入れなどを企画し、幼児児童生徒一人一人の興味関心を高める。 計画的にバーコード化に向けての準備を進め、バーコードによる貸し出しを開始する。
教育情報部	④保護者、関係機関と連携をし、特別支援教育のセンター的役割を果たしている学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページによる情報発信をし、学校理解の推進に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな媒体でもストレスなく見ることができるページとする。 学校紹介や、学校要覧などを統合したものとし、内容の充実を図る。 「県立学校におけるホームページ作成のガイドライン」に留意して作成する。

生徒指導部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	<ul style="list-style-type: none"> 災害に対する最善な対策案を提示し、組織的に訓練を実施していくことで、危機管理意識を高める。 幼児児童生徒の現況の正確な把握、職員間での確実な情報共有に努め、学校全体で体系的な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害種に応じた訓練を対応マニュアルに沿って計画・実施し、現状における課題点の確認や対策・改善を図っていくことで、態勢を整え、全員で防災に対する危機管理意識を高めていく。 心のアンケートやいじめ・不登校等対策委員会を定期的に実施する。幼児児童生徒の変化を感じ取れるよう日頃からの観察に重点を置き、それぞれの現状把握、職員間での情報共有に努めるとともに、学年や部、学校全体が一体となって体系的な支援を展開する。
進路指導部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点から障害や年齢に応じた生活や進路に関する支援を本人の意思を大切にしている。 学校生活から卒業後の生活への移行をスムーズにできるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定支援を保護者、関係機関と連携しながら行い、自ら進路決定できるようにする。 関係機関との連携を充実し、卒業後の生活と学校生活が結びつくイメージがもてるように情報提供を行い、日々の指導・支援に生かす。
保健部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の保健に関する情報（ヒヤリハット・事故事例などを含む）を全職員で共有し、学校全体の課題として取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 部会、職員会議、グループウェアを効果的に活用して情報を共有し、課題に速やかに対応できるようにする。 学校生活管理指導表や保健個票などの重要な情報を、学校保健委員会や食育推進委員会で取り上げ、全職員で共有する。 食物アレルギー対応や医療的ケアについての研修内容を充実させ、職員の専門性の向上を図る。
自立活動部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由教育に関するさまざまな指導法を学び、職員の自立活動に関する専門性の向上を図る。 個に応じた指導内容や方法を選定し、自立活動の指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容を中心に、実践的な内容やディスカッション形式を取り入れた自立活動勉強会や自立活動相談を実施する。 他分掌とも連携し、教材・教具、支援機器やその活用方法等について、分かりやすく具体的に示す、指導に取り入れたい、つなげていったりすることができるような形での情報発信をする。 外部専門機関と連携し、相談内容やアドバイスについて全校職員に伝え、指導の参考にできるようにする。 「自立活動ハンドブック」の内容や活用方法について周知を図る。
教育支援部	④保護者、関係機関と連携をし、特別支援教育のセンター的役割を果たしている学校	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に特別支援教育研修会を行ったり、蓄積した相談の事例等を活用したりして、校内外に本校のセンター的機能の取組や特別支援教育に関する情報の提供をする。 学校を中心に地域の縦横関連機関と連携して「みんなプロジェクト」を推進し、校内外に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもの理解、相談の事例を紹介したり、支援部便りを閲覧しやすいようにしたりする。校内外の支援に向けての連携、協働を進める。 「楽しくスタイル衣服製作」、職員、保護者向けの姿勢保持等の小物制作研修会を実施し、掲示やホームページ、展示会で紹介する。
寮務部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態を的確に把握し、安心して気持ちよく生活できる環境作りに努める。 実効性のある各種訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> こまめな健康状態のチェックとアレルギー情報を共有し適切な対応をとる。また、快適な生活環境の確保のために施設・設備の要望をあげ、必要箇所の修繕・修理を行う。 さまざまな想定を考えた避難訓練・不審者対応訓練・緊急時対応訓練を行い、課題点や問題点の改善・対策を考えていきながら、個々の防災・防犯・緊急時の意識向上を目指していく。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		指導・支援をつなげる。(14年間を踏まえた指導・支援の充実、職種間での連携・協力) 主体的な学びを促す授業づくりを行う。(卒業後に生きる力の育成、個を伸ばす) 教職員の人權意識の向上を図る。(合理的配慮、人權研修の充実) 業務の精選による多忙化改善及び協働できる職員体制の確立(職員関係やメンタルヘルスの充実)	

平成30年度学校評価

(1) 自己評価結果

重点目標 ○指導・支援をつなげる。(一貫性・専門性・協働性) ○主体的な学びを促す授業づくりを行う。(卒業後に生きる力の育成) ① 健康で安全に学習でき、安心して通える学校 ② 一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校 ③ 教職員の能力や専門性を発揮できる学校 ④ 地域の特別支援教育のセンター的役割を果たしている学校			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼・小学部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容・方法についての検討・実践・評価・改善により、主体的に活動する力を育む授業づくりを行う。 部・学年の関わりや引き継ぎを積極的に実施し、部間・学年間でつながりのある指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物を捕まえたり育てたりする経験、五感に働き掛ける感触遊びや感覚遊び、ICT機器を活用した学習などにより、幼児児童が意欲的に活動に取り組み、個々の目標を達成することができた。文化祭の指導や合同学習においても、子どもの興味や活動の幅の広がりを促し、学年や他学年の友達との関わりの中で協調性や相手を思いやる気持ちをもつなど、幼児児童の主体的・対話的で深い学びを促すことができた。 食の指導やアレルギー対策、医療的ケアの実施と保護者への啓発、ヒヤリ・ハット事例の周知等により、健康や安全に対する職員の意識の向上を図り、幼児児童の実態や障害特性に応じた適切な指導・支援を推進することができた。

			<ul style="list-style-type: none"> 長期欠席や訪問教育の幼児児童への学習環境の整備や他の幼児児童との関わり、小学部から中学部への継続的なつながりについて、今後さらに積極的な取組を充実し、幼児児童生徒の関わりを深めたり、適切な学習支援や移行支援を図ったりしていく必要がある。
中学部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画と個別の指導計画を活用し、学習面・生活面において指導の継続を図ると共に、卒業後の生活を見据えた身に付けたい力の育成を目指す。 一人一人が主体的に活動して目標を達成できる実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活を見据えた「身に付けたい力」を得られる授業実践に向けて、中学部全職員で個別の教育支援計画と個別の指導計画を活用し、共通理解を図った。 夏季休業を利用して作業学習の実践について話し合い、2学期に実践した結果を12月に発表した。生徒への継続した支援や教材の工夫の必要性について共通理解を図ることができた。スタディ会を中心に個々の生徒の課題や指導の手だてなどを話し合い、指導に生かした。 生徒一人一人の日々の健康状態について、学年会や部会で確認し、中学部全職員で把握できるように努めた。特にヒヤリ・ハット事例を受け、その防止に向けた対策を部全体で確認し実践した。
高等部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 中学部や中学校での教育の成果を引き継ぎ、卒業後に向けた実践的な学習を積み重ねることにより、生徒一人一人の主体性を育む。 卒業後の進路先に実践の成果を確実に引き継ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業や生活の中で自己選択や自己決定の場面を設けることにより、自ら行動を起こす生徒が増えた。また、障害重度の生徒においては意思表示がはっきりしたり感情表現が豊かになったりするなどの変化がみられた。 外部講師授業では障害当事者である起業家による座談会、障害者スポーツの現役選手によるポッチャ競技の実践的指導等とおし、生徒自らが将来生活を深く考えるきっかけとなった。 小規模集団による校外学習を各スタディ毎に実施し、具体的な体験を積むことで、それぞれの学習内容を深化させることができた。 Aスタディの生徒については、「産業社会と人間」の授業においてサポートブックの作成を行うことで自己認識を深めることができた。 自己選択、自己決定の理念については障害者の権利擁護に関する重要な概念であるので、研修や打ち合わせを通じて職員の共通理解をさらに進めていきたい。
訪問教育	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 訪問生と通学生、また、訪問生同士の情報を交換し合う機会を設定し、つながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を用いて、交流を図ることができた。訪問教育の児童生徒は、友達の声を聞くと目が大きくなるといった変化が見られた。今後も、いろいろな方法で、いろいろな人と関わられるようにしていきたい。
総務部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動に対するアンケートを保護者対象に実施し、感想や意見等を集約する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の感想、意見、要望を集約した結果を踏まえた具体的な対応策を、各部会や年度末の保護者部懇談で報告した。 アンケート結果から、今後の授業や教育活動に対しての課題が明らかになった。また、具体的な改善の糸口を保護者と職員とで共有することができた。 保護者アンケートの回収率を上げることが課題である。
教務部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 幼小中高の指導・支援について話し合う場を設定し、つながりのある教育課程について整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼小中高全ての部の教員を教科別にグループ編成をし、4回(4・7・12・3月予定)教科会を実施した。各部での授業状況をスタディ別に話し合うことで、学習内容のつながりについて共通理解を図れた。幼児児童生徒の実態や発達段階に応じた学習内容や教科書の系統性についての整理は引き続き行っていきたい。 新学習指導要領について、伝達講習の内容を要約した資料を作成し、全教員に配布して部会において説明を行った。変更内容や新学習指導要領が目指す方向性について共通理解が図れた。今後も各教科の変更事項等の確認を教科会等を通じても行い、新学習指導要領への理解を進めていきたい。
研修部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の教員として必要な知識、技能の習得、安全に関する訓練等の研修を計画する。 主体的な学びを促す授業づくりを行うための研修・研究等を発展させ、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校研修は、今年度より5回計画し、救急法・アレルギー研修・人権研修・進路研修・授業研修を各校務分掌と連携して実施した。夏季自主研修は、分掌・個人企画合わせて12講座開催し、述べ231名の参加を得ることができた。各講師の創意工夫により、参加者が主体的に学ぶ研修を実施できた。研修については、特別支援教育の動向や本校の現状を加味し、職員のニーズにそった研修時期、研修内容となるように検討し、次年度に生かしていく。 各部のスタディ会やケース会で通年取り組んだ研究内容の進捗状況や成果が日々の授業に反映できるよう、まとめ方や方向性を教務と連携して示した。次年度は研究が継続した取組となり、学校全体で共有できるような方策を考えていきたい。
図書部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい配架整備と図書室利用の啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科や分掌と連携して月ごとのテーマ別企画展示を行った。また、図書システム推進に向けて古い本の廃棄とバーコードの貼り付けを行った。全ての蔵書にバーコードの貼り付けを完了できた。今後もバーコードによる貸し出しに向けての作業を進める。 読書週間では本への関心を高め、図書室利用を促進するために国際子ども図書館の貸し出しやクイズコーナー、変身コーナーの催し、PTA主催の読み聞かせを行った。今後も幅広い年齢や発達段階に合わせた使いやすい図書室にしていきたい。
教育情報部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の授業での活用方法を広める。 グループウェアを活用し、日常業務の合理化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者サーバに情報が保存されるサービスの利用について規程を策定し、授業場面などでの活用方法を紹介した。今後、具体的な活用事例を紹介し、多くの職員が利用できるようにしたい。 掲示板の投稿方法はルールを決めるなどして、情報のすみ分けを行った。「アンケート」「ファイル管理」など、利用数が少ないので、利用例を提示して、活用できるようにしたい。
生徒指	①健康で安	<ul style="list-style-type: none"> 実効性のある防災訓練の具体案 	<ul style="list-style-type: none"> 教室や廊下等、避難経路のガラスに飛散防止フィルムを貼ったり、ヘル

導部	全に学習でき、安心して通える学校	を提示し、組織的に訓練していくことで、防災に対する意識を高める。 ・幼児児童生徒の現況把握、情報共有に努め、学校全体で体系的な対応を図る。	メット、防災ずきんを各教室に配備したりして防災対策を進めることができた。防災訓練の際には実際にそれらを利用して避難を行い、安全に避難する意識を高めていくことができた。 ・いじめ不登校対策委員会で検討し対策を図ったことで、生徒の欠席状況を改善することができた。アンケートや職員研修、人権に即した授業の実践で、幼児児童生徒の実情を職員で共通理解し、適切な指導に取り組めた。次年度は全職員が一人一人の人権を意識して指導に取り組めるようにしていきたい。
進路指導部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	・キャリア教育の視点から障害や年齢に応じた生活や、進路に関する支援を行う。 ・学校生活から卒業後の生活への移行をスムーズにできるように支援する。	・地域との連携を図るために個別支援会議の開催方法を確立し円滑な情報交換ができるようにした。一宮市障害者基幹相談支援センターの職員を講師として招き、地域との連携を深めるための全校研修（職員）を実施した。職業講話で一宮市自立支援協議会の方を招き、中学部、高等部生徒に働くための授業を実施した。卒業後に向けて在学中に取り組むべきことについて、中学部、高等部の生徒が学ぶ機会、保護者への情報提供をすることができた。このような取組みで、一宮市自立支援協議会との協体制度をさらに確立させていきたい。 ・各部懇談で卒業後の生活や課題について紹介し、保護者への啓発を図った。また、卒業生の進路先での様子などを一覧にし全職員に回覧することで、社会生活での課題と学校生活を結び付けて進路指導への意識の向上を図った。 ・学校生活から社会生活への移行は、学校全体の課題である。そのために、各部の連携や職員が子どもたちの社会生活イメージをもちながら、どのように学校生活を送るかを考えたい。
保健部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	・学校保健計画の見直しをする。 ・保健情報（ヒヤリハット・事故事例などを含む）を効果的に共有して課題を明確にし、学校全体の課題として取り組む。 ・安全な学校給食の運営に努める。	・ヒヤリハットや事故事例を部会で報告して全職員で情報を共有できるようにした。職員間の安全意識が高まり、今年度は緊急搬送につながる事故は起こらなかった。今後も、毎年度始めにヒヤリハット情報の収集と共有の重要性について全職員で確認し、安全への意識をさらに高められるようにしていく。 ・給食では食物アレルギー対応として、誤配食防止のために食器の色を変え、アレルギー対応給食実施までの流れを再確認した。学校保健委員会や安全衛生委員会でも取り上げ、学校全体のこととして取り組んでいる。調理委託業者とも協力し、今後も安全な給食を提供できるようにしたい。
自立活動部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	・個に応じた指導内容や方法を選定し、自立活動の指導の充実を図る。 ・肢体不自由教育に関するさまざまな指導法を学び、職員の自立活動に関する専門性の向上を図る。	・年度当初のオリエンテーション等を利用し、「自立活動ハンドブック」の活用について周知を図ることができた。 ・「個別の指導計画」を作成する際の留意点、目標設定の観点等をまとめたものを提示し、合わせて新学習指導要領改訂のポイントについて伝達した。 ・外部専門家や医療等と連携して行った相談とその結果を資料として職員に公開し、指導の参考にできるようにした。また、基礎的・基本的な内容を中心に自立活動勉強会を実施し、その様子を公開することで、勉強会に参加できなかった職員にも情報を提供する機会とした。 ・「みんなプロジェクト」の小物製作と連携し、自活室にあるみんプロ製作小物の使用方法を紹介する掲示物を作成した。次年度はより分かりやすい掲示物を作成し積極的に小物類が活用されるようにしていきたい。
教育支援部	④地域の特別支援教育のセンター的役割を果たす学校	・夏季休業中に特別支援教育研修会や相談活動を行ったり、支援Q&A等を活用したりして、校内外に本校のセンター的機能の取組や特別支援教育の提供をする。 ・学校を中心に地域の繊維関連機関・関連企業と連携して「みんなプロジェクト」を推進し、校内外に発信する。	・夏季休業中の特別支援教育研修会では外部の教員を含め午前2名、午後26名の参加があった。個別の相談会は10件実施した。 ・支援会議等の校内支援の進め方、各分掌との積極的な連携が課題である。 ・「みんなプロジェクト」では、地域の繊維関係機関と連携し、肢体に不自由のある子どものメンズスーツの制作を進めた。姿勢保持など生活に役立つ小物の職員向け研修会の実施、PTAの小物制作講習会への支援も行った。さらにみんなプロジェクトに関する校内掲示、授業紹介をしたり、学校ホームページを通したりして取組を広く発信した。
寮務部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	・心と体の健康を大切にしながら、卒業後の生活に活かせる生活習慣・社会性が身につけられるよう、指導・支援を行う。	・避難訓練や不審者対応訓練、毎月の安全指導を通じて、一人一人の安全への意識が高まり、災害時や緊急時の初期行動を自分から考えて動けるようになった。 ・こまめに健康状態の把握に努め、職員間で情報を共有することで、舎生の体調に応じた指導を行えた。 ・設定した個別の目標に対し、保護者や担任と連携しながら取り組むことができた。引き続き、新たな生活習慣・社会性の習得をめざし、指導・支援に当たる。
総合評価			「指導・支援をつなげる」「主体的な学びを促す授業づくり」を重点目標として掲げ、①から④の下位目標を定めて取り組んだ。①については、防災訓練やヒヤリハット事例の共有、人権教育の実践により、適切な指導と安全への意識の高まりにつながった。②については、関係職員が個々の情報を共有・相談し、幼児児童生徒の個々の特性や発達段階に応じた授業実践に取り組んだことで、14年間を見通した指導を実践することができた。さらに部間や卒業後の進路先に成果をつなげることが重要である。③については、現職研修をとおして授業改善や肢体不自由教育の専門性の向上を図った。また、外部専門家と連携し指導助言を授業に生かすことができた。④については、校内や地域の小中学校、高等学校、保護者に対して指導助言を行い、積極的にセンター的な役割を果たすことができた。今後、学習指導要領改訂に合わせ、学びの連続性の確保や、自立と社会参加

に向けた教育の充実を一層図っていく。

(2) 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	指導・支援をつなげる。(14年間を踏まえた指導・支援の充実、職種間での連携・協力) 主体的な学びを促す授業づくりを行う。(卒業後に生きる力の育成、個を伸ばす) 教職員の人権意識の向上を図る。(合理的配慮、人権研修の充実) 業務の精選による多忙化改善及び協働できる職員体制の確立(職員関係やメンタルヘルスの充実)
自己評価結果について	全職員、全幼児児童生徒で人権教育について取り組んだ結果、生徒作文が受賞するなど人権意識の向上が見られた。また、会議の見直し、解錠施錠時間の設定等、業務改善を図った。
今後の改善方策について	14年間をとおした指導・支援のさらなる充実とともに、特に部間での学びの連続性の確保を図る。 また、教職員一人一人が人権意識をさらに高め、肢体不自由教育の専門性向上に努める。
その他(学校関係者評価委員 から出された主な意見、要 望)	<ul style="list-style-type: none">・事業所においては、サポートブックを活用してスムーズに学校から移行できている。支援をつなげる取組も成果を上げている。・施設では、名前の呼び方で利用者が戸惑うことが多い。学校での呼称と卒業後の呼称が異なることが原因。高等部では移行の時期と捉え、フルネームで呼ぶなどの取組も良いかと思う。・各部の授業の見学では、職員が楽しく授業を行い、子どもたちが元気に発言をしていた。熱心に児童生徒に対応されていると感じた。・運動会に地域の町内会長が来校することで理解は深まっている。・トイレの改修工事で、安全・安心な環境になり、子どもたちの自立につながっている。・インフルエンザやノロウイルスなど、感染症対策(手洗い・うがい)をしっかりと行ってほしい。
学校関係者評価委員会の構 成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none">・構成…学校関係者評価委員(学校評議員)5名 医療関係者、学識経験者、進路関係者、保護者代表、地域住民代表・評価時期…平成30年度は、6月に第1回をアンケートという形で実施し、第2回目を2月に実施した。